

令和元年度 第1回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和元年7月5日（金） 午後7時～午後9時

2. 場 所：甲南図書交流館 ゆめ工房

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 辻 富子 杉本 正典 辻 節子
土山 道夫 福井千恵子 神山さちこ 中村ひろ子
山中 ルミ 竹村 吉史

【事務局】 富田課長 香取館長 今村館長 片岡館長 奥山館長

傍聴者なし

4. 次 第：（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）議事

① 平成30年度 第3回会議録について

② 平成30年度 活動報告について

③ 令和元年度 実施事業計画について

④ 「パブリック・コメントの結果」の報告及び、「甲賀市図書館サービス計画 第2次計画」、「甲賀市子ども読書活動推進計画 第3次計画」策定について

（4）その他

（5）閉会

5. 内 容

（1）開会

（2）会長あいさつ

このメンバーで協議を行うのは今日が最後となった。令和の時代に入ったので、平成29・30年度の2年間の協議会活動を振り返ってみたい。

平成29年度は、図書館協議会が図書館の第三者評価を行い、平成30年度は、「図書館サービス計画第2次計画」、「子ども読書活動推進計画 第3次計画」策定について協議を重ねていただいた。それぞれ小委員会も開催し、大変活発に意見を出していただき、多くの意見を図書館評価やサービス計画に盛り込むことができた。この2年間、充実した活動ができたと思う。

次回から委員が替わるが、策定されたサービス計画に基づき図書館運営がされるため、委員であっても、委員でなくても図書館の活動に注目していただきたい。今後、図書館サービスが充実していくことを見守りたいと思う。

一方、世の中を見ると、G20で世界中の首脳が大阪に集まったが、大国どうしのぶ

つかり合いなどで混沌とし、先が見えなくなっている。国内では年金は100年安心と言いながら、老後は2千万円の蓄えが必要との話が出たりして、混迷を極める時代になってきている。

テレビやマスコミのいろいろな言葉に躍らせられるのではなく、「何が本当に大切か」という知識を、私たちが身につけていかななくてはならない。そのためには図書館という一つの施設が、私たちにいろいろな知恵を与えてくれる場ではないのかなということであらためて感じた。今後、図書館をよりよいものにしていただくように、利用者の立場としてもお願いしたい。

(3) 議事

① 平成30年度 第3回会議録について

委員：議事録が公開される場合は、この原稿のままではなく、要約されるのか。

事務局：図書館ポータルサイトの容量もあるため、要旨を要約する予定である。

委員：第3回会議録は、これでよいと思う。

② 平成30年度 活動報告について

事務局：「平成30年度 活動報告」について説明。

委員：出来上がった数字だけ見ていると、このような実績だったのかと思うが、活動報告をまとめるのに、かなりの労力がかかったと思う。過去の作業の蓄積もあったと思うが、大変な作業だったと思う。

しかし、今後、違った角度から見ていくことも大切だと思う。

委員：活動報告書を毎年発行する意味について考える必要がある。継続して行っていることについて、「効果がどのように出ているか」ということをアピールできないか。例えば、こども読書通帳は何年も継続されている事業であるが、最初の発行した年に比べて、現在はこのような成果が出ているとか、ブックスタート事業についても、子どもの読書活動にどのように繋がっているかなどが見えてくる統計があれば、事業を存続する意義が明確になる。ポイントを決めて、活動報告を作成するともっとよくなると思う。毎年やっていることについても、その意味を確認できると思う。

委員：23ページに「県内図書館のサービス水準」が毎年記載してあるが、その中に県立図書館の数値は出せないのか。

事務局：県立図書館の数値は出していない。

委員：県立図書館がどれくらいの動きがあるのかが不明なので、知りたかった。

事務局：来年度の活動報告作成のときに検討していきたい。

委員：守山市図書館がリニューアルされて、どれくらいの効果が出ているのか知りたい。また、長浜市図書館についても状況を知りたい。

事務局：守山市立図書館は昨年11月1日にリニューアルオープンをした。長浜市立長浜図書館は今年の12月1日にオープン予定である。23ページの「県内図書館のサービス水準」は平成29年度実績であるため、リニューアル後のデータは含まれていない。

守山市立図書館は2階に個人の学習スペースが用意されており利用者が多い。土曜日・日曜日は行列ができる。平日も高校生等の利用者が多い。

委員：多賀町は貸出冊数や、蔵書冊数が特別に突出しているように見えるがどのような魅力があるのか。

事務局：多賀町の図書館は魅力があり、かつ立地条件や交通アクセスもよいのではないかと。

委員：滋賀県内の図書館の館長が集まって話をする機会はないのか。

事務局：県立図書館で理事会や分野別会議が開催されるので、館長が集まる機会はある。

委員：館長が集まる機会があれば、貸出冊数の多い図書館の秘訣等をぜひ聞いていただき、参考になることがあれば取り入れていただきたい。

委員：学校の中に図書館がある地域があると聞いたが。

事務局：甲良町が旧小学校を利用しており、魅力的な図書館だが、小学校の造りということで使い勝手が悪い面もあるようだ。

委員：野洲市と守山市は隣同士なのに、これだけ差があるというのは、図書館がどこにあるかということがあるかもしれないが、色々なことが見えてくるかもしれない。

委員：有名な絵本作家を呼んで講習をするなど、野洲市は講座が多い。駅に近くは無いが、文化公園の近くにある。

委員：気になるのは、職員数が平成30年度で、その前の年よりも減っていること。そのことによって、図書館で開催する事業はどう影響が出ているのか。人が減ったことによって継続できなくなった事業があるのか。例えば、移動図書館のある地域が減ったとか。

事務局：課題になっているが、平成30年度については移動図書館のステーション数は減らしていない。ただ、見直していくことは考えている。

委員：どこかにしわよせが出ているのではないかと、懸念する。

事務局：実は、今年度さらに職員数が減っているため、図書館間で応援を依頼しているが、休館日が異なっているためなかなか難しい面もある。図書館で始めたサービスは途中で中止するのが難しいものが多いため、効率的な運営について検討はしているが、30年度で止めた事業はない。

委員：今は何でもデジタル化になっており、本もネットで見られる。貸出数に影響はあるのか。

事務局：利用される方がいるのは聞いているが、提供されているコンテンツが少ない。やはり本で読む方がわたしは読みやすいという声が多い。デジタルを利用している方が、図書館に来られているのかどうかというのは別のことかもしれないが。図書館での提供もしているところはあるが、まだまだタイトル数が限られており、金額に見合わないということもあるため、これから検討していく課題だと思っている。

委員：だんだん紙ベースではなく、デジタル化になりつつある世の中で、なかなか蔵書を増やしていくのは大変だと思う。

事務局：今、湖南省が電子図書を入れているが、やはり冊数が少ない。電子化するのに、著作権の問題もある。しかし、若い人はスマホで見ているので、そのあたりの普及状況も見ながら検討していかざるを得ない。

活動報告の作成に労力を費やしてしまい、なかなか検証まではできていない。サービス計画や子ども読書活動推進計画が活動報告に反映してくるものでもあり、色々な改善策なりをお聞きしながら、いい方法を選べたらと思っている。職員数もほぼ限界に近いが、色々なことを考えていけないといけない。それは図書館だけではなく、市としての色々な方向性もある。

委員：図書館の存在意義が活動報告に結集されていると思う。それを何とか伝えていけないか。数値関連で見れば他との比較になるが、甲賀市の特徴がここにあるということを示せないか。イベントの列挙だけではなく、何かプラスアルファが欲しいというつも思う。これだけのことをやっているのに、貸出冊数が減ることなどに目がいってしまう。それを何とか伝えていけないか。

事務局：ビブリオバトルも枠を小学生に広げたら、小学生がさっそく参加してくれた。

委員：他のところからも言われたが、小学生が参加するのかとびっくりされている。他の地域は募集しても来ないが、甲賀市の場合はバトラーとして出てくれている。一つ一ついろいろなことがあると思うので、そこを何とか伸ばしていきたいと常々思う。

委員：市の広報紙にビブリオバトルを載せてもらって周知を図ったらどうか。

委員：見に来る人も小学生が見に来たら、小学生が小学生に票を入れるかもしれない。

委員：本当にそれで様子が変わると思う。

委員：23ページ「県内図書館のサービス水準」で県内図書館の比較を見ると、大津市がほとんど最下位になっているが、大津市の方は県立図書館の方に借りに行くからか。

委員：そうだと思う。

委員：大津の図書館は浜大津にあるが、駐車場も狭いし行きづらい。

委員：県立図書館は自然も緑もきれいだし、子どもを遊ばせながら利用できる。

委員：滋賀県の図書館のサービス水準は全国的に高いのか。前にテレビで、滋賀県はたくさん本をよく読んでいるから老化しないと言っていた。

事務局：「日本の図書館2018」によると、県民1人あたりの貸出冊数は全国2位。東京が8.31冊。2位が滋賀県で7.23冊になっている。全国平均は5.23冊なので、滋賀県は全国平均よりも2冊多い。

職員の司書有資格者数は全国1位。滋賀県が82.9%、全国平均は53%。市町村の図書館設置率も全国1位、滋賀県は100%。他に、富山県、石川県、福井県、鳥取県が100%だが、全国平均は76.2%になっている。

委員長：図書館がひとつも無い市町村って考えられないが、あるんですね。

委員：信楽図書館ができる前の話だが、陶器の町なので全国から陶芸家が集まるなか

で、「信楽には図書館がないのか。何というところか。」という声があり、そういった声が地域みなさんにも浸透して、図書館の必要性に気付かされていったという、そんな経緯を思い出した。

事務局：陶芸家の方が、干支や、陶芸のための作図の参考にするため図書館の資料を見に来られるということを知ったことがある。

委員：兄弟で上の子が小学生で読書通帳を持っていて、それを見た小学校にはまだ行ってない下の子が「僕も欲しい」とねだっているのを見かけたことがある。小さいお子さんでもそういうものがあれば、リピーターとしての図書館利用が図れるのではないかと感じた。

事務局：先ほど紹介した簡易版のミニ読書通帳を使っていただき、免許皆伝証は親が独自に作るとかしていただけるとありがたい。読書記録にもなる。

事務局：読書通帳に50冊記入してくる児童は、1年生や2年生が多く、中学年、高学年と上がっていくほどにその達成数が減っていく傾向にある。実現は難しいが、もし中学生に読書通帳を配布すると、多分通帳を活用する生徒はごく僅かかもしれない気がする。逆に保育園児や幼稚園児には、興味が高いのかもしれない。大人の人でも自分が借りた本の一覧を欲しいと言われる方はおられるが、図書館で貸出履歴は持たないのでそれはできない。ただ、図書館ホームページのマイメニューの中では、この3月中旬以降マイ本棚というコーナーを設け、登録すれば借りた本の履歴が本人には見られるようになっている。

委員：そういう利用方法の講習会みたいなものはないのか。

事務局：講習会は実際に開催したが、参加者がなかった。ネットを使った検索や予約、貸出延長などの利用方法は、広報していく必要があると思っている。

委員：休館日を変えることはできないか。各館ごとに休館日が固定なので、同じ図書館しか利用できないことが多い。

事務局：ひとつの方法かとは思いますが、休館日を変えると逆に混乱する恐れもある。現状では、5館のうち最低2館あるいは3館は開いており、月火と木金休館体制が定着していると考えている。

委員：ネットからは本の検索、予約、貸出延長などできるようになっており、土山に住んでいても信楽の本などをネットから手軽に借りて利用している。ただ最近、水口の西友の本屋が閉店したのは残念だった。

委員：町の本屋さんがなくなるのは淋しい。アマゾンで買わずに、街の本屋さんで本は買わないといけない。

③ 令和元年度 実施事業計画について

事務局：「令和元年度 実施事業計画」について、図書館サービス計画の「めざす姿」や「取り組み」に基づき整理した事業の概要を説明

委員：案内表示の改善の具体的な案はあるか。

事務局：現状ではピクトグラムを取り入れた表示方法などを、5館の実務担当者会で検討

している。

委員：本が棚いっぱい詰まって取り出しにくかったり、紙芝居のケースなどもタイトル順が乱れていて非常に探しにくかったりするが改善できないか。

事務局：館によって状況も違い、言い訳になるが利用者の方が違うところに返してしまうということもある。できるだけ整理してそのような状況を改善したい。適切な書庫入れ等を行い取り出しやすい工夫をしていきたい。

委員：タイトルは、あいうえお順なので、タイトルを知らないと聞けない。

事務局：甲賀図書館情報は、あいうえお順には並んでいない。「あ行」「か行」などの行で並んでいる。それでも違うところに入っている。

委員：紙芝居は子どもだけでなく高齢者にも利用してもらっているのか。ボランティアの方が高齢者のサロンで子ども向けの紙芝居を読んでいるのを聞いて、いいなと思った。大人も楽しい。

委員：高齢者向けのものもある。「愛染かつら」や「金色夜叉」とか。

事務局：高齢者向けに作られているものもいくつかある。

委員：どこの図書館にもあるのか。

事務局：ある。

委員：私も紙芝居はよく借りるが、題名がわからないと見つけられないし、紙芝居の表紙をひとつずつ、かき分けて見ないとわからないので、その辺は改善できないか。紙芝居の横に題名があるといいと思う。

また、高齢者向けとか、昔話とかのコーナーでジャンル分けができればと思う。

事務局：館の事情にもよるが、スペースが設けられるところでは、昔話を集めたり、紙芝居のケースがあるところは、タイトルを横に表示したりしているが、できていないところもある。

委員：それと、紙芝居が下の位置にあるところは座って探さなくては見にくい。

事務局：目の高さが一番見やすいとは思っている。

また、紙芝居の舞台も貸出しているので利用できる。

事務局：棚やスペースの制限があるので難しい。甲南図書館交流館では「アンパンマン」や新着は集めている。

委員：意見箱の情報収集というのがあるが、出た意見はどうなっているのか。

事務局：まとめて館内で閲覧はしているが、張り出してはしない。1年半前の協議会でも意見がでて、検討したが中途半端になっている。再度主な意見だけでも検討したい。100近くの意見がある。

委員：いろいろな意見はフィードバックしないといけないし、協議会の話とかもあるのではないかと思ったので。

事務局：特に音やにおいの問題がある。子どもの声や空調の音がうるさいという意見がある。7割はよい評価の意見で3割は改善してほしいという意見である。

委員：意見があるということはいいこと。答えをしていくと次の意見も入ってくると思うので是非お願いしたい。

④「パブリック・コメントの結果」の報告及び、「甲賀市図書館サービス計画第2次計画」、
「甲賀市子ども読書活動推進計画 第3次計画」策定について

事務局：5月29日開催の定例教育委員会で承認を得た。

今後5年間この2つの計画に基づき事業を進めることを報告させていただく。

委員：総合計画や大綱のように冊子は作るのか。

事務局：前回同様、ホームページに掲載する。図書館の実践的計画であるので。

(4) その他

委員：図書館サービスの中の、レファレンスサービスを使って調べた結果を成果物にまとめたので紹介する。信楽図書館、県立図書館の多くの本や司書の機転からたどり着くことが出来た。(県立図書館の方が「行政と宮の名前」の本を2冊ほど示していただいたことによって分かってきた。)

(提供資料：『天満宮・天満神社』をもとに紹介いただく)

委員：たいへん興味深いお話。

図書館には、探していけば、本当の情報がある。

(5) 閉会

課長：8月改選を迎える。今任期2年間のご支援にお礼を申しあげる。

職務代理あいさつ

図書館のことについて、いろいろと議論ができたことは大変よかったと思う。

滋賀県は、家庭での読書習慣を身につけるため「おうちで読書事業」を2カ年計画で立ち上げた。おはなしサークル紙ふうせんが推進チームのメンバーとして選ばれ、イベント会場で、おはなし会を行う。機会があれば事業や研修会にご参加いただきたい。